

## 第2学年 学級活動(2) 指導案(食に関する指導)

指導者 京都市立美豆小学校  
学級担任 大本 勇介(T1)  
栄養教諭 北山 聖子(T2)

1 日 時 令和6年1月19日(金) 第5校時(13:45~14:30)

2 学年・組 第2学年1組(20名)

3 題 材 「給食の食べ方名人」を目指そう  
(エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成)

### 4 題材について

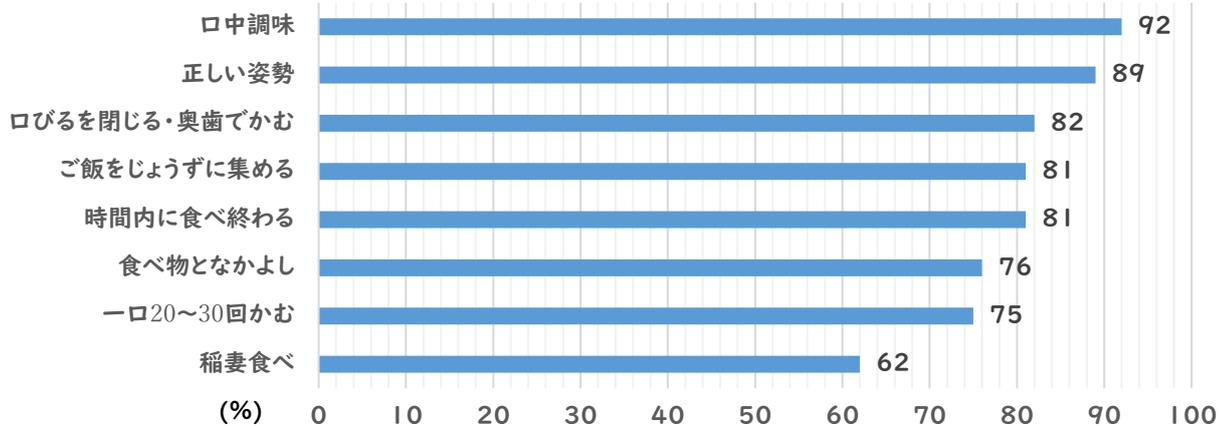
#### (1) 児童の実態

2年1組の児童は、明るく素直で、クラスみんなが仲良く過ごしている。1年生の食の学習では、「食べ物となかよくなろう(まほうの食べ方)」について学習し、苦手な食べ物でも食べられるまほうのおまじないを自分なりに考えて書いた冊子を持っていたが、だんだんと苦手な食べ物が減り、「もう冊子はいらんねん。」という児童もいる。牛乳についての学習後には、全く飲めなかった児童も少しずつ飲めるようになり、今では全員が飲めるようになった。

2年生では、野菜の働きについて学び、苦手な野菜にもチャレンジする姿が多くみられるようになった。また、4つの味や五感について知ることによって、「おいしさを言葉で表そう：給食カレンダー裏面への感想の記入」の語彙も増えてきた。これらの取組から、野菜やごはんなど、少しずつ食べる量も増え、食べる力が伸びている児童が多くみられる。さらに、ほとんどの児童が「おさかな名人」(煮魚の骨を上手に取り、残さず食べられると「おさかな名人」の賞状を配布：食べきれなかった児童には、「食べる力をのばしま賞」の賞状を配布することによって、煮魚の苦手な児童が減少した。)になり、煮魚も残さず上手に食べられるようになってきている。

一方で給食時間の子どものたちを観察すると、良い姿勢への意識はあるが、くせで肘をついたり食器を持たずに食べていたり、ご飯粒を上手に集められず、食べることに時間がかかったりしている様子が見られる。また、ひと口20~30回よくかんで食べられていない様子や、口中調味はできているが、稲妻食べはうまく出来ていない様子も見られる。

## 事前アンケート結果より できていると答えた児童の割合



事前に行ったアンケート結果からは、口中調味が出来ている児童が92%、食器を持って良い姿勢で食べている児童が89%、唇をとじて奥歯でよくかんで食べていると答えた児童が82%、ごはんを上手に集めて食べられていると答えた児童は81%で、給食時間内に食べられていると答えた児童も81%いた。いろいろな食べ物となかよくなる事が出来ていると答えた児童が（苦手な食べ物にチャレンジできている児童が64%、苦手な物がない児童が33%、残さず食べられていると答えた児童が76%）であった。

ひと口20~30回くらいかんで食べていると答えた児童が75%で、稲妻食べが出来ている児童が62%となったことから、よくかんで食べることや稲妻食べに対する実践力が低いことが分かった。知識として学んではいても実践できていない項目がある児童もみられた。

そこで本時では、児童が普段の給食時間を想起し、主体的に食べ方やマナーの様々な工夫を考える。自分だけではなく、クラスみんなが気持ちよく過ごせるマナーや、よりおいしく食べる食べ方を考えることが身体だけではなく心の成長にもつながることに気づき、「給食の食べ方名人」を目指す。自分たちが成長したことで身につけた工夫を、事後に1年生に伝えることで「給食の食べ方名人」を目指すことへの意欲を高めたい。

## (2) 題材設定の理由

### 【題材設定の理由】

本題材は、食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成に関わる内容である。学校給食に関する内容については、給食の時間を中心に指導することが日常的であるが、学級活動の時間でも取り上げ、その指導の特質を踏まえて計画的に指導する必要があると考える。この内容は、自分の食生活を見直し、自ら改善して、生涯にわたって望ましい食習慣が形成され、食事を通してよりよい人間関係や社交性が育まれるようにするものである。楽しく食事をする事、健康によい食事のとり方などの改善について身近な事例を通して考え、自己の課題に気づき、具体的な目標を立てて取り組むなどの活動が中心となる。

具体的な内容としては、【つかむ】において、2年生になり給食で出来るようになったことと出来ないことに着目することで、ある程度できることが増えた現状のままで良いか考え、もっとできることを増やしたい、「給食の食べ方名人」になりたいという意欲を高める。

【さぐる】では、マナーを守る理由について考え、自分や周りの人が気持ちよく過ごせることや、マナーを守ることで自分の体と心の成長にもつながっている事が分かるようにする。

そして、【みつける】では、どんなマナーや食べ方をすれば「給食の食べ方名人」になれるかを考える。

【決める】では、「給食の食べ方名人」になるために具体的な自分の目標を考え、更なる意欲につなげたい。

児童が目標を実践できるように、栄養教諭の専門的な立場から給食時間で個別の声かけや事後に担任と連携して「給食の食べ方名人試験」を行うことで指導効果は高まり、内容についての有効性が増すのではないかと考える。特にアンケート項目の中で出来ていないと答えた児童の多い内容について着目し、今より出来ることを増やし、より楽しくおいしく楽しく食べるために必要なことを学ばせたい。また、それを実践することで、更に個々の食べる力を伸ばしていきたい。

## 5 第2学年の評価規準

観 点	よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者とし ての思考・判断・実践	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
評 価 規 準	望ましい食生活を送るために、給食時間を中心にマナーや食べ方等の知識や行動を理解している。	自分の給食時間の課題に気付き、「給食の食べ方名人」になるために、自分のめあてを意思決定して実践している。	給食時間に自分のマナーや食べ方をよりよくしていこうと実践し、楽しい給食時間を過ごし、さらによい人間関係を形成している。

- 6 食育の視点 心身の健全な成長や健康の保持増進のために、マナーを守り、バランスよく食べることの大切さが分かる。<②心身の健康>

## 7 事前の活動

児童の活動	・指導上の留意点	◎目指す児童の姿 (観点)【評価方法】
・給食時間や朝学活の時間に給食のマナーや食べ方について確認しておく。 (稲妻食べ・口中調味・くちびるをとじて奥歯でかむ・姿勢・時間内に食べる・苦手な物も食べる等)	・食器を持つ・姿勢よく食べる等、なぜ、そうすることが必要なのか確認しながらすすめる。	食事のマナーやおいしく食べる食べ方について知り、実践しようとする。 【食育ノート】

## 8 本時のねらい

給食時間のマナーや食べ方についてふり返り、「給食の食べ方名人」になるにはどのような食べ方をすれば良いかを考え、具体的な目標を決める。

## 9 本時の展開

	児童の活動 □指導者の発問	指導上の支援(●) 留意点(○)	資料	◎目指す児童の姿 (観点) 【評価方法】
導 入	つかむ 1. 2年生になって給食時間に出来るようになったことを想起し、発表する。	●クラスの給食時間の様子や給食で出来るようになった様子の写真を見ることで、自分たちがたくさんできるようになったことに気付くようにする。(T1・T2)	PC・TV	

	<p>□ 2年生になって給食でできるようになったことはどんなことがあるかな。</p> <p>2. 「できているかなチェック」の集計結果や食育ノートから、自分の給食時間をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口中調味ができています。</li> <li>・食器を持って食べられるようになった。</li> <li>・時間内に食べられるようになった。</li> <li>・苦手な物も食べられるようになってきた。</li> <li>・おいしさを見つけおいしく食べられている。</li> <li>・おさかな名人になった。</li> </ul> <p>3. まだできていないことに注目し、なぜできるようになるとよいか考える。</p> <p>□ 出来ることが増え、おいしく楽しく食べられているから今のままで良いのではないのでしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今のままだもよい。</li> <li>・おいしく食べられている。</li> <li>・マナーが出来ている人が多い。</li> <li>・稲妻食べてきていないよ。</li> <li>・よくかんで食べられていない人も多いよ。</li> <li>・まだできていないこともあるし、もっとかっこよくなりたい。</li> </ul>	<p>● 児童の発言を、画用紙にメモをしながら板書に残す。(T1)</p> <p>○ 給食時間の様子やアンケートの内容を思い出し、自分自身の問題として考えられるようにする。(T2)</p> <p>○ 食育ノートを見ながら、「稲妻食べ」について確認する。(T2)</p> <p>○ 食べることに時間のかかる子や偏食の子等が注目されないように配慮する。(T1)</p> <p>○ 今の自分の給食時間をふり返ることで、自分事として捉えながら3年生に向けて「給食の食べ方名人」を目指そうとする意欲が高まるようにする。(T2)</p> <p>○ 学級目標の「やさしさ名人」「メリハリ名人」についてふれる。(T1)</p> <p>○ 今のままの食べ方でもよいかを問い、理由まで考えられるようにする。(T2)</p> <p>○ めあてを出した直後に、今のままの食べ方でも大丈夫？とゆさぶりをかけることで、「給食の食べ方名人」になりたいという意欲につなげる。(T1・T2)</p>	<p>PPT (出ている様子の写真・アンケート結果)</p> <p>画用紙 食育ノート</p>	
<p>展開</p>	<p>さぐる</p> <p>4. なぜ、給食のマナーを守るのか理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大人になったときに困るから</li> <li>・かっこわるいから</li> <li>・体が成長しないから</li> <li>・心も成長しないから</li> <li>・みんなが困るから</li> <li>・みんなの見本になりたいから</li> </ul>	<p>○ 作ってくれた人が困るから、など自分以外のために守るといふ発言をした場合は、その考えを認めつつ、まずは自分の成長に注視できるように助言する。(T1・T2)</p> <p>○ もう一つの学級目標の「みんなの見本になる」についてふれる。(T1)</p>		

	<p><b>見つける</b></p> <p>5. 「給食の食べ方名人」になるための方法や理由を考え、発表する。</p> <p>□ 「給食の食べ方名人」になるには、どうすれば良いか方法や理由を考えよう。 【1人（5分）→グループ（5分）→発表（8分）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食器を持って姿勢よく食べる。</li> <li>・口中調味でもっとおいしく食べる。</li> <li>・唇をとじてよくかんで食べる。</li> <li>・時間内においしく食べ終わる。</li> <li>・稲妻食べができる。</li> <li>・苦手なものにチャレンジする。</li> </ul>	<p>○ マナーを身につけ、楽しくおいしく食べることで、体が大きくなるだけでなく、心も大きく成長するということに気づくようにする。（T2）</p> <p>○ 「給食の食べ方名人」になるにはどのような食べ方をすれば良いか、方法も考えられるようにする。（T2）</p> <p>○ 机間指導により、「給食の食べ方名人」について記入出来ている児童の考えを全体に広げられるようにする。（T1）</p> <p>○ グループ活動では、理由についても交流できるように助言する。（T1）</p> <p>● グループで話し合うことで、自分が今出来ていないことでも、こうすれば「名人になれる」という視点で考えられるようにすると共に、すべてのアンケート項目が出来ている児童は、出来ていない項目のある児童にアドバイスするように働きかける。（T1・T2）</p>	<p>ワークシート</p> <p>PPT （グループ活動の流れ）</p>	
<p>終末</p>	<p><b>決める</b></p> <p>6. 自分が「給食の食べ方名人」になるための目標を書き、板書の項目に名前を貼る。</p> <p>□ 自分の成長のために「給食の食べ方名人」になるための方法を考えて書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時計を見ながら、時間内に食べ終われるようにする。</li> <li>・おいしさを見つけながらよくかんで食べ、もっとおいしく食べる。</li> <li>・稲妻食べをして、ごはんもおいしく食べるようにする。</li> <li>・苦手な食べものは先に食べて、元気な体を体をつくる。</li> <li>・姿勢よく食べるために、食器を持って食べる。</li> <li>・口中調味をしてもっとおいしく食べる。</li> </ul>	<p>● 板書や食育ノートを見返すことで、自分の具体的なめあてや実践するための方法や工夫が具体的に書けるようにする。（T1・T2）</p> <p>● 板書に出ていない目標をあげている児童は、発表できるよう事前に把握する。（T1・T2）</p> <p>● 1人1人の課題を事前に把握しておき、その課題に応じた目標になっている児童に発表させる。（T1・T2）</p> <p>● 机間指導で、それぞれの問いや目標をさらに引き出す発問を個々にできるようにする。（T1・T2）</p> <p>○ 達成できる目標の内容や数になるよう声かけし、自分の決めめあてを5日間実践することで、「給食の食べ方名人」になろうとする事後への意欲につなげる。（T2）</p>	<p>PPT</p> <p>ワークシート</p> <p>食育ノート</p>	<p>◎ 自分の給食時間の課題に気付き、「給食の食べ方名人」になるために、自分のめあてを意思決定して実践しようとしている。（思考・判断・実践） 【ワークシート・発表】</p>



## 1 2 事後の取組

児童の活動	・指導上の留意点	◎目指す児童の姿 (観点)【評価方法】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標ができたか自己決定したことを5日間実践し、ふり返る。</li> <li>・給食の食べ方名人試験(栄養教諭・担任により、給食時間にできているかをチェック)の実施をし、実践した目標をふり返り、交流する。</li> <li>・動画を撮り、1年生にマナーや楽しくおいしく食べられる食べ方を伝える。(給食時間等に視聴)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の目標が達成できるように給食時間に栄養教諭・担任による声かけ指導をする。達成出来ない日があっても良いことをおさえる。</li> <li>・できているかなチェック9項目全てが1つずつクリアできるように声かけする。</li> <li>・食育ノート(アンケート項目)から1年生に伝えたいテーマを選び、グループごとに動画を撮れるように支援する。(担任・栄養教諭)</li> <li>・家庭へ食育だよりやHPを通して授業の様子を伝え、児童が自分の目標を達成出来るように協力を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の目標をすすんで実践しようとしている。 【ワークシート】</li> <li>・1年生に給食の食べ方について伝えようとしている。 【動画】</li> </ul>

## 1 3 ICTの活用

- ・本時 PPT
- ・事後 動画撮影

## 1 4 教科との関連

- ・生活科 2年生「広がれ わたし」自分の成長
- ・道徳科 2年生「大きくなったね」 (生命の尊さ)
- 「おじさんからの手紙」(規則の尊重)
- 「きまりのない学校」 (規則の尊重)